

2学期を振り返ってのアンケートについて(報告)

2学期を振り返ってのアンケートに御協力ありがとうございました。下記のとおり、結果を報告します。アンケート結果を今後の教育活動に生かし「A:とてもあてはまる」と答える児童を増やすための手立てをうつことによって、子どもたちが健やかに成長し、主体的に行動できるように努めていきます。

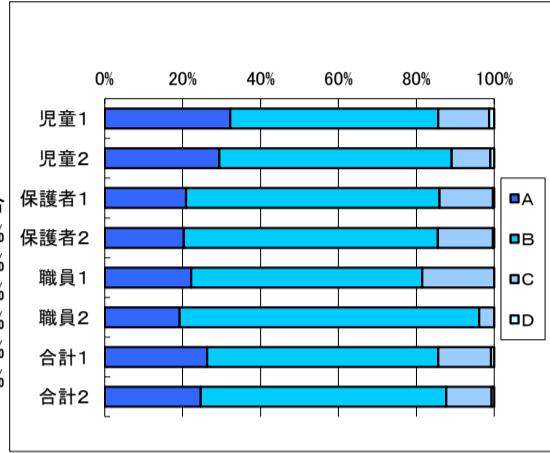
記

2学期を振り返ってのアンケート

2学期アンケート A:とてもあてはまる、B:すこしあてはまる、C:あまりあてはまらない、D:ほとんどあてはまらない

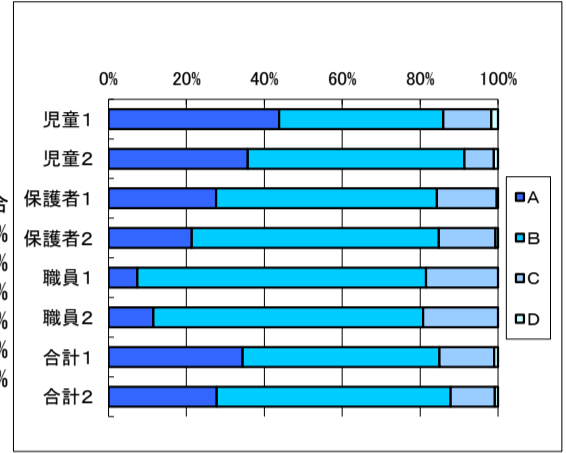
1 生活をよりよくすることや授業で追究したいことに気づく力がついていますか。

Table with 5 columns: Category, A, B, C, D, Aの割合. Rows include 児童1, 児童2, 保護者1, 保護者2, 職員1, 職員2, 合計1, 合計2.



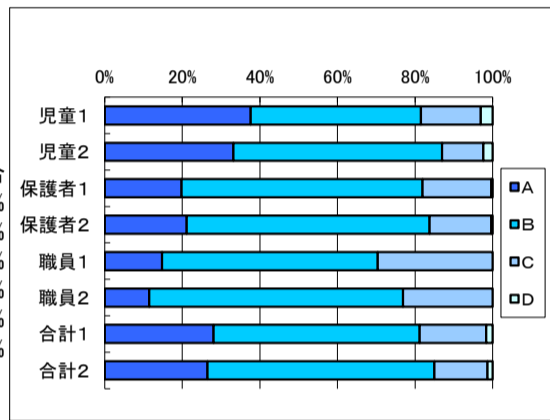
2 気づいたことについてどうしたらよいか考えていますか。

Table with 5 columns: Category, A, B, C, D, Aの割合. Rows include 児童1, 児童2, 保護者1, 保護者2, 職員1, 職員2, 合計1, 合計2.



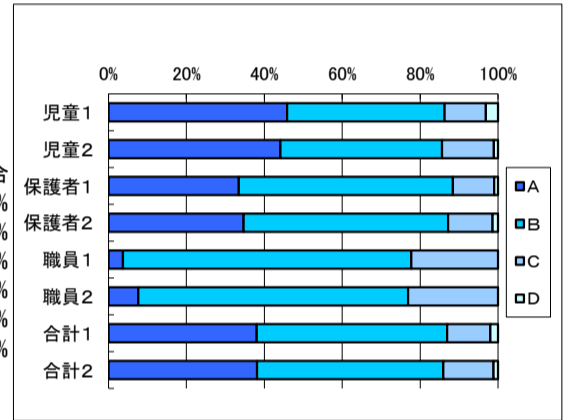
3 気づき考えたことを行動していますか。

Table with 5 columns: Category, A, B, C, D, Aの割合. Rows include 児童1, 児童2, 保護者1, 保護者2, 職員1, 職員2, 合計1, 合計2.



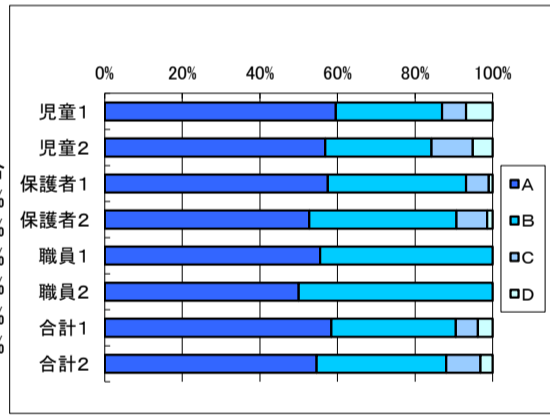
4 自分がされていやなことはしない、言わないができていますか。

Table with 5 columns: Category, A, B, C, D, Aの割合. Rows include 児童1, 児童2, 保護者1, 保護者2, 職員1, 職員2, 合計1, 合計2.



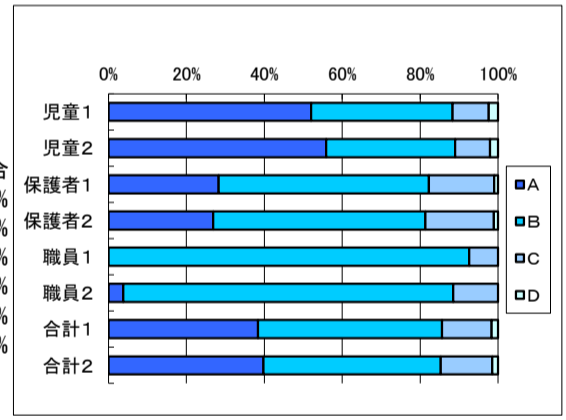
5 学校は楽しいですか。

Table with 5 columns: Category, A, B, C, D, Aの割合. Rows include 児童1, 児童2, 保護者1, 保護者2, 職員1, 職員2, 合計1, 合計2.



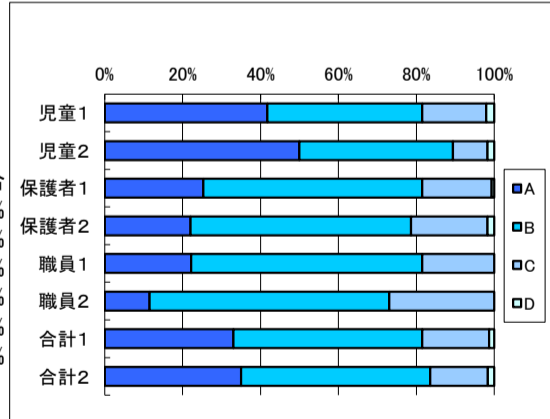
6 授業はわかっていますか。

Table with 5 columns: Category, A, B, C, D, Aの割合. Rows include 児童1, 児童2, 保護者1, 保護者2, 職員1, 職員2, 合計1, 合計2.



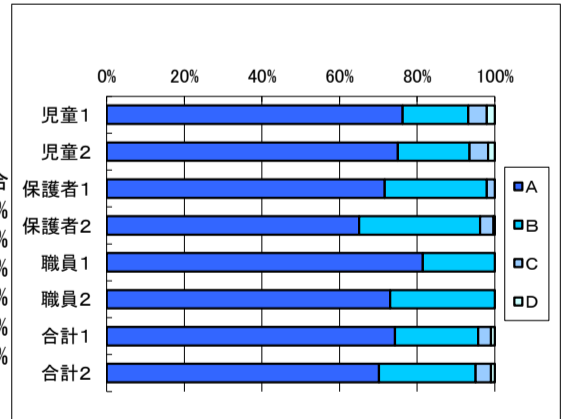
7 授業に主体的に取り組んでいますか。

Table with 5 columns: Category, A, B, C, D, Aの割合. Rows include 児童1, 児童2, 保護者1, 保護者2, 職員1, 職員2, 合計1, 合計2.



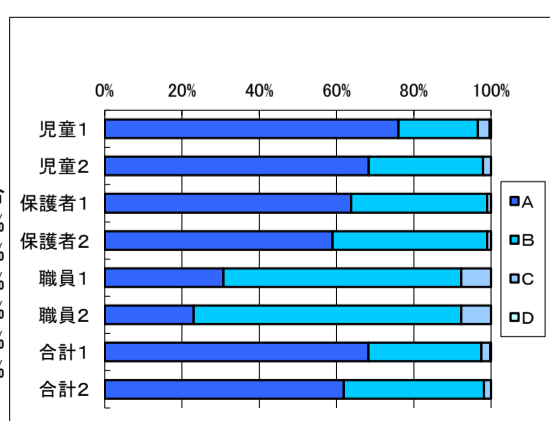
8 みんなで何かをするのは楽しいですか。

Table with 5 columns: Category, A, B, C, D, Aの割合. Rows include 児童1, 児童2, 保護者1, 保護者2, 職員1, 職員2, 合計1, 合計2.



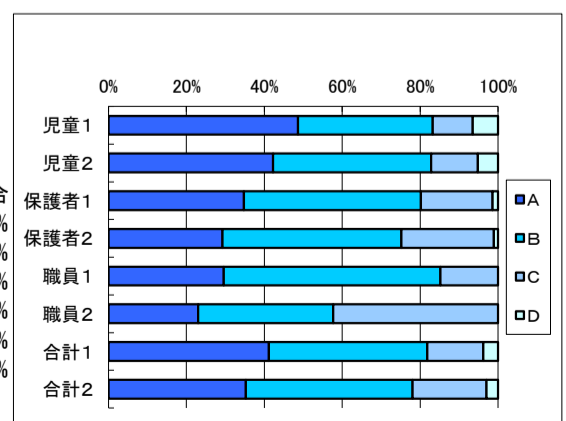
9 自分や友達を大切にしていますか。

Table with 5 columns: Category, A, B, C, D, Aの割合. Rows include 児童1, 児童2, 保護者1, 保護者2, 職員1, 職員2, 合計1, 合計2.



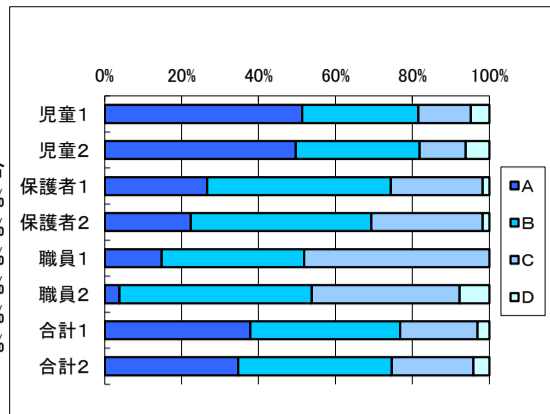
10 学校で、すすんであいさつをしていますか。

Table with 5 columns: Category, A, B, C, D, Aの割合. Rows include 児童1, 児童2, 保護者1, 保護者2, 職員1, 職員2, 合計1, 合計2.



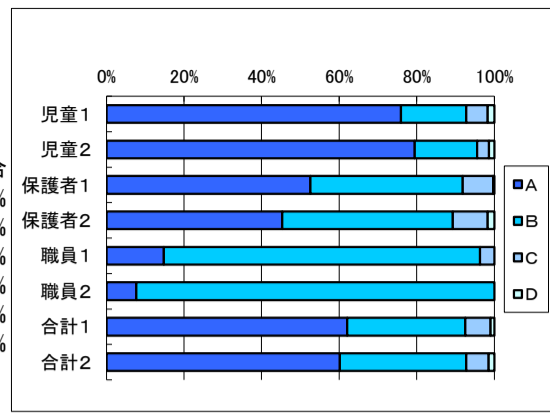
11 家や地域で、すすんであいさつをしていますか。

	A	B	C	D	Aの割合
児童1	150	88	40	14	51.4%
児童2	145	94	35	18	49.7%
保護者1	78	140	70	5	26.6%
保護者2	65	136	84	5	22.4%
職員1	4	10	13	0	14.8%
職員2	1	13	10	2	3.8%
合計1	232	238	123	19	
合計2	211	243	129	25	



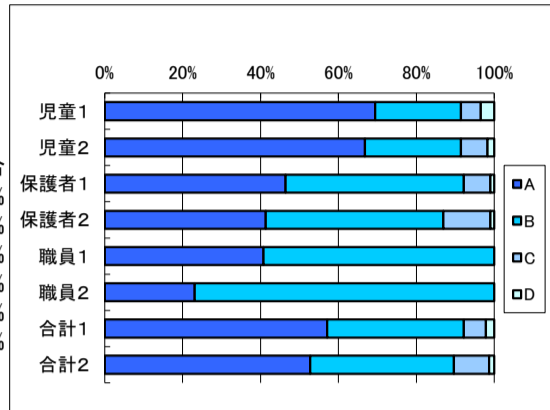
12 学校に信頼できる(相談できる)友達がいますか。

	A	B	C	D	Aの割合
児童1	221	49	16	5	75.9%
児童2	232	47	9	4	79.5%
保護者1	154	115	23	1	52.6%
保護者2	131	127	26	5	45.3%
職員1	4	22	1	0	14.8%
職員2	2	24	0	0	7.7%
合計1	379	186	40	6	
合計2	365	198	35	9	



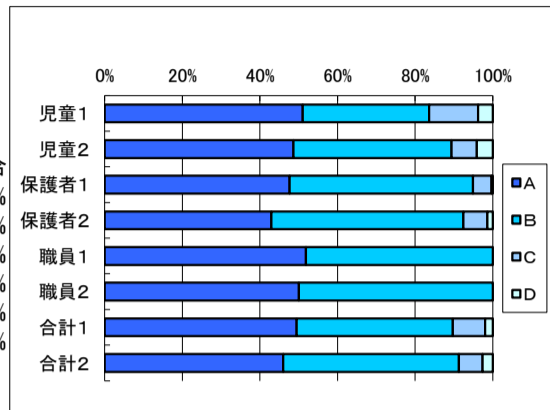
13 学校に信頼できる(相談できる)先生がいますか。

	A	B	C	D	Aの割合
児童1	202	64	15	10	69.4%
児童2	195	72	20	5	66.8%
保護者1	136	134	20	3	46.4%
保護者2	120	132	35	3	41.4%
職員1	11	16	0	0	40.7%
職員2	6	20	0	0	23.1%
合計1	349	214	35	13	
合計2	321	224	55	8	



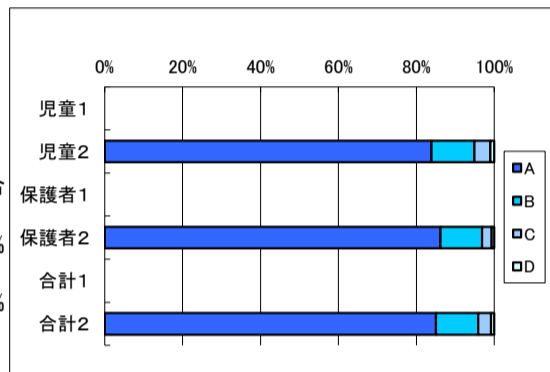
14 白羽小学校の授業や行事などの学校生活に満足していますか。

	A	B	C	D	Aの割合
児童1	149	95	37	11	51.0%
児童2	142	119	19	12	48.6%
保護者1	139	138	14	1	47.6%
保護者2	124	143	18	4	42.9%
職員1	14	13	0	0	51.9%
職員2	13	13	0	0	50.0%
合計1	302	246	51	12	
合計2	279	275	37	16	



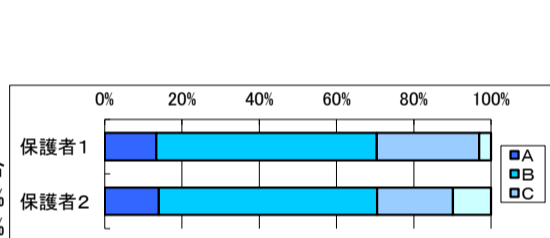
15 朝食を毎日食べていますか。

	A	B	C	D	Aの割合
児童1	245	32	12	3	83.9%
児童2	249	31	7	2	86.2%
保護者1	0	0	0	0	
保護者2	494	63	19	5	



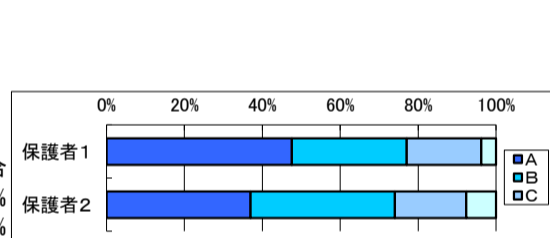
16 スクラムファイブ宣言を御家庭で積極的に取り組んでいますか。

	A	B	C	D	Aの割合
保護者1	39	166	77	9	13.4%
保護者2	40	161	56	28	14.0%



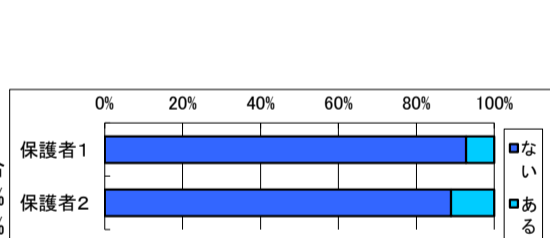
17 スクラムカレンダーを活用していますか。

	A	B	C	D	Aの割合
保護者1	139	86	56	11	47.6%
保護者2	107	107	53	22	37.0%



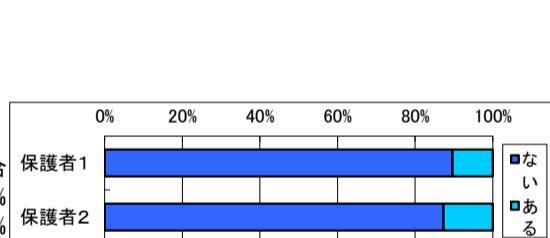
18 お子さんの様子を見ていじめを心配されることがありましたか。

	ない	ある	Aの割合
保護者1	270	21	92.8%
保護者2	257	32	88.9%



19 白小の子どもで、いじめにつながるような気にかかることはありませんか。

	ない	ある	Aの割合
保護者1	258	30	89.6%
保護者2	247	36	87.3%



アンケート結果の考察(番号はアンケート項目番号)		
番号	結果から読み取れること	今後取り組んでいくこと
1 2 3	「気づき 考え 行動する」「自信を持ってAと言える子に」 ・子どもたちのAB評価は、1学期に比べ「気づき力」3.4%増、「考える力」5.4%増、「行動する力」5.5%増と、いずれも増えている。また、いずれも約9割と高い。3年継続の重点目標の「気づき 考え 行動する子」が、子どもにも教師にも浸透し、生活や行事、授業などの中で意識し行動している。特に、行事や生活科や総合的な学習などで主体的に行動する子どもの姿が見られているので、AB評価は伸びているのではないかと。反面、A評価はいずれも約3割と低い。子ども、保護者、教師の3者ともA評価が低いことから、自信を持ってAといえる子を増やしていく必要がある。	「具体的なイメージ」「勇気づけのボイスシャワー」「子どもに任せる」 ・子どもたちに「気づき 考え 行動する」とはどうすることなのかの具体的なイメージを伝えたり、具体的な場面で「今の〇〇していた姿が、気づき 考え 行動する姿だね。」と価値づけ(勇気づけのボイスシャワー)たりしていく。 ・生活や授業、行事などで、子どもに任せる場面を設定する。教師は待つことや対話して子どもの考えや思いを引き出すことなどを心がけ、子どもの主体性を引き出していく。
5 12 13 14	「友達関係の深まり」「楽しい・満足の子を増やす」 ・「信頼できる友達がいる」のA評価の子が79.5%と高く、1学期に比べて3.6%増えている。行事や「生活科や総合的な学習の時間」などで、友達との関係が深まっていると考えられる。教師のA評価が7.7%と低いのは、学級の中で友達関係などで困っている子や気になっている子の存在や、子ども同士のトラブルなどに常に気を配っているからではないか。 ・「学校は楽しい」「学校生活に満足している」のA評価の子がそれぞれ56.8%、66.8%であった。行事に一生懸命取り組む白羽小の子どもたちなので、友達との関係がさらに深まり、学校生活の中で一番長い時間を費やしている授業をより楽しく学ぶことで、A評価がさらに増えるのではないかと。	「かがやきカード」「日々の授業の充実」「早期発見、早期対応」 ・子ども同士が認め合う機会をさらに増やしていく。かがやきカードをさらに活用していく。 ・「子どもと向き合う時間」を大切に、子どもたちと外で遊んだり、日々の授業を充実させるために教材研究を深め、子どもが夢中になって取り組みたくなる授業をつくっていく。 ・子どもたちが主体的に取り組んでいる「生活科や総合的な学習の時間」を核に、子どもの思いを生かし活動をつくり出していく。 ・一人一人の子どもたちをよく見て、よさやがんばりを宝さがしの目で見つけ、勇気づけのボイスシャワーをたくさんかけていく。そして、いつもと違う表情をしている子どもやトラブルを早期発見し、早期対応していく。
4	「慣れと成長」 ・子どもたちは、人間関係に慣れができたためトラブルも増え、Cの割合が少し増えたのではないかと。 ・保護者は、Bの割合がAとCに分散した。行事などを通し、子どもの成長を感じる一方、トラブルの様子を見聞きする機会が増えたのではないかと。 ・教員は、全校道徳などの指導の成果を感じ、Aの割合が増えたのだろう。	「合い言葉と感謝」 ・「自分がされて嫌なことは 人にしない 言わない正義を持つ」の合い言葉を、繰り返し指導し続ける。 ・人や物への感謝を意識させ表すことで、友達のよさを実感し、トラブルを減らす。 ・かがやきカードをさらに活用し、子ども同士が認め合う機会を増やす。
6 7	「子どもと保護者・教員のギャップ」 ・子どもたちは、関わりが落ち着いてきて、学ぶ楽しさを味わっているため、授業が分かる児童がA3.8%、授業に主体的に取り組んでいる児童がA8.2%増えた。 ・保護者は、宿題への取組やテストの結果で判断しているため「授業が分かる」がA1.4%「主体的に取り組む」がA3.2%減っているのではないかと。 ・教員は、1学期より、授業での求める姿も高くなってきているため、「主体的に取り組む」がA10.7%減ったと考えられる。	「教材研究」「分かる授業」 ・子どもたちが「分かった。」「これから使える。」と思う授業をするために、教材研究により一層力を入れる。 ・活用できるようにするために、「学びの足跡」へ既習事項を掲示する。 ・学んだことを定着させるために、自学で復習に力を入れさせる。 ・授業の様子を学年便り・学校便り、HPなどで伝えていきたい。
8 9	「自分を大切に」「友達を大切に」「みんなで協力」 ・自分や友達を大切にしている児童がAの割合は7.6%減少している。 ・保護者も4.8%、教員も7.7%減少している。友達とのトラブルや子ども同士の人間関係が2学期に入り、多くなってきたことが原因ではないかと考えられる。 ・みんなで何かをするのが楽しいですかという質問に対するAの割合は、児童、保護者、教師ともに減少しているが、これは大きな行事がないことも影響しているのではないかと考えた。	「目指す子どもの姿を明確に」「大切、協力の意味と1年間の価値付け」 ・楽しむ姿、友達を大切にする姿、自分を大切にする姿が明確になっていないため、そこを教師も子どもも明確にして共通理解できれば、具体的な取り組みや手立てにつながると考える。 ・友達を大切にするには相手思いや感謝することにもつながるため、残りの期間で再度指導をしたり、声かけをしたりしていく。 ・1年間を振り返り、子ども達が友達や自分を大切にできた場面や協力してきた場面を教師が価値付け、子ども達自身も認め合える場を設定する。
10 11	「自信を持ってあいさつできると答えられる子にしていこう」 ・進んで挨拶をしている児童がA6.3%、家や地域で進んで挨拶している児童がA1.7%減った。A&Bの割合で見ても、Aの児童は0.4%減っている。 ・保護者の意見でも、地域や家庭で挨拶しているがAの割合は4.2%減少している。学校であいさつしているがAの割合も5.5%減少している。 ・教員の評価では、学校で進んであいさつしているは6.5%減少している。一人ではできないことが、教師の評価につながっていると考えられる。	「価値付け」「重点活動を挨拶に」 ・進んであいさつできている児童もたくさん見られる。高学年を中心に、登校班で元気にあいさつをしたり、自分たちで職員室にあいさつにきたりする姿もある。そうしたできている児童を認め、褒めていくことを続けて自信につなげていくようにしたい。 ・あさしおごはんは白羽小学校の伝統であるため、子ども達もそれを意識して生活している。自分たちができるようになったあさしおごはんをさらによくしていこうという思いがもてるように価値付けて、来年度につなげていきたい。
15	「朝食を食べることの大切さを理解させたい」 ・朝食を毎日食べていると答えた児童がA83.9%、Bも含めると94.9%と高かった。 ・保護者の回答も、朝食を毎日食べていると答えた保護者が96.9%と高かった。 ・CやDと答えた児童は1年生が0人に対し、2年生から人数が増えていく傾向にある。	「低学年のうちから定期的な朝食指導を」 ・低学年のうちから、朝食を食べることによって体や脳にどんな働きがあるか指導し、朝食を食べることの大切さを児童に理解させる。 ・高学年の家庭科の授業で、朝食を食べることの大切さに触れる。
16 17	「D評価増」「どこで話題にするか」「カレンダー活用OK」 ・スクラム5宣言のA評価、AB評価は、ほぼ変わらない。A13.4→14.0。AB70→70.5。一方、D評価の人数は変わった。D1学期9人→2学期28人。関心の低い家庭では、話題にしない期間があると、さらに評価が下がるのではないかと。 ・スクラムカレンダーの評価は、A47.6→37.0。AB77.0→74.0。一方、D1学期11人→2学期22人と倍増している。全家庭で「どこに貼るか」を決めてほしい。	「自分ごと」「価値付け」「振り返り」「やっぱりPDCA」 ・保護者が、家庭教育を考える絶好のチャンスは、学級懇談会。ここで、この学校評価の結果を懇談の材料にしたらどうか。留意することは、プラス思考で話し合うこと。「我が子(または白小の子)は、どんなあいさつができていますか。どんなあいさつをしてほしいか。そのために、親は、どうしているか。子どものあいさつを見て、うれしかったことはあるか。」学級懇談会が、学校からの説明のみにならないように配慮したい。
18 19	「いじめについての意識の高まり」 ・いじめについて心配がある保護者は、1割ほど増えている。これは、いじめについて意識するようになり、子どもの話や親同士の情報交換を通して、心配することが増えたのではないかと。	「学校と家庭の協力」 ・学校も家庭も、いじめはどこでも起こりうるという危機感を持つ。そして、互いに情報交換し、協力して問題の解決に取り組んでいく。 ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなど、外部の専門家ともつながり、連携して問題の解決に取り組んでいく。

よさを見つけよう 宝さがしの目で かけよう 大人から子どもへの勇気づけのボイスシャワー



気づき 考え 行動する子 「自分から みんなで」

白羽小

→ ホームページでも公開しています。